

第2回奈良市都市計画マスタープラン策定委員会会議録		
開催日時	平成25年7月3日（水）午後1時30分から午後4時30分まで	
開催場所	奈良市保健所・教育総合センター 3階 大会議室	
議 題	1 前回意見に対する回答及び修正案 2 都市計画マスタープランとは 3 改訂の視点 4 改訂 都市計画マスタープラン（全体構想）	
出席者	委 員	杉江会長、大窪副会長、前迫委員、井原委員、工藤委員、魚谷委員、岡田委員、尾崎委員、林委員【計9人出席】
	オブザーバー	浦辻委員（地域Ⅰ）、新堂委員（地域Ⅱ）、辻澤委員（地域Ⅲ）、藤田委員（地域Ⅳ）、上野委員（地域Ⅵ）、中口委員（地域Ⅶ）、上田委員（地域Ⅷ）、植委員（地域Ⅸ）【計8人出席】（青山委員（地域Ⅴ）は欠席）
	事務局	津山副市長、東井都市整備部長、中澤都市計画室長、喜多課長、森本課長補佐、藤原係長ほか【計14人出席】
開催形態	公開（傍聴人0人）	
担当課	都市整備部都市計画課	
議事の内容		
1 前回意見に対する回答及び修正案 2 都市計画マスタープランとは 3 改訂の視点 上記項目について、次の資料を基に、概要を事務局から説明 (1) 第1回奈良市都市計画マスタープラン策定委員会の意見に対する回答及び修正案【資料1】 (2) 都市計画マスタープランの改訂【資料2】 (3) 説明用パワーポイント【資料4】		
〔質疑・意見の要旨〕		
会 長	事務局より、議事1・2・3の説明がありました。 前回委員会で各委員から頂いた意見については、回答の通り修正を行い、事前に説明があったかと思われませんが、なお不十分という点があれば、ご意見をお願いします。	
前迫委員	パワーポイント（以下「ppt」という。）の4ページで、防災・自然環境・エネルギーが挙がり、それぞれ土地利用や公園緑地など都市計画の分野が対応しています。この意図として、これら他分野の項目については、それぞれ対象とする具体計画はあるが、改訂都市計画マスタープラン（以下「改訂計画」という。）でも対象として、方針を検討すると捉え	

れば良いでしょうか。

また、改訂計画の項目にある安全・安心の下の項目で防災を扱うと説明がありましたが、安全・安心と防災は近いけど少し違うと考えます。東日本大震災を受け、安全・安心というぼんやりとした言葉ではなく、防災やエネルギーへの明確な関心を持っているし、改訂計画で明確にしていかなければならないことだと考えます。

事務局 防災・自然環境・エネルギーの右側に記載している土地利用等について、防災・自然環境・エネルギーは都市計画の主たる対象ではありませんが、右側の土地利用など都市計画施策と関連が深いので、そこでこれらの視点を都市計画の観点から検討するという意図で記載しています。

なお、これらは、前回意見がありました農や食などの視点より都市計画施策との関連が深いので、重要視したいということで抽出記載しております。

安全・安心については、重要な視点であると考えており、全体構想では大きな項目を設け、その方向性を示しております。

前迫委員 防災・自然環境・エネルギーは、改訂計画の中でも重点を置いて考えていきたいという意図ですね。

「他分野の視点」とあるので、それぞれを対象とする分野に軸足があるのかと思ったのですが、そうではないのですか。

事務局 どちらに軸足があるのかということではなく、都市計画的なアプローチの部分については、都市計画サイドでも検討するということです。

ただし、都市計画の範疇を超える部分は、市最上位計画である第4次総合計画（以下「4次総計」という。）や担当課で検討している基本計画などで取り扱います。

なお、担当課が進める事業において、都市計画的なアプローチが求められた際に、改訂計画で方向性を位置付けておかないと対応できないこともあります。

そうした意味で、都市計画的なアプローチの部分については、改訂計画で方向性を位置付けるということですか。

前迫委員 都市計画の項目がたくさんある中で、右側に記載された項目は重点的に考えていきたいということですか。

事務局 都市計画の項目の中でも重点的に考えるというわけではありません。

都市計画の観点から位置付けられる方向性を検討するということです。

前迫委員 わかりました。おって理解が進むだろうと思います。

前迫委員 ppt4 ページの改訂計画の項目で、赤と青の色分けがあるがその意図はなんですか。

事務局 赤の項目は、主として都市計画の対象となる項目で、青の項目は、主として他分野が対象とするが、都市計画と関連が深い項目です。

前迫委員 わかりました。
まちづくりの基本方針はキーワードであり、全てを示している訳ではないので、防災やエネルギーなども視点として盛り込んであるならば良いと思います。
ただ、安全・安心に加えて「・防災」とすれば、より明確になるのではないかと思い、意見しました。

会 長 上位計画である 4 次総計が策定される前に現行の都市計画マスタープランがありました。
4 次総計は 10 年後を目標に、予算措置も考慮した具体施策を盛り込んだ計画です。
一方で、改訂計画は 20 年後を目標とした計画で、具体施策は盛り込まれず、4 次総計より抽象的な計画となります。
よって、上位計画だから、都市計画分野以外は 4 次総計を踏襲するというだけでは済まないのではないのでしょうか。
また、4 次総計策定後、東日本大震災があり、これを踏まえた形で改訂計画を考える必要があるのではないのでしょうか。

副会長 前迫委員の話を受けて、p p t 4 ページの「都市計画における他分野の視点」は、「他分野と関連する都市計画の視点」とした方が良いのではないのでしょうか。「都市計画における他分野の視点」では、都市計画の視点はないと誤解が生じるように感じます。
また、同ページで、4 次総計の表現と改訂計画の表現が違うことも混乱を招く要因になっていると思われます。
例えば、4 次総計では「環境保全」と表現されているものが、改訂計画では「環境」と表現されています。

会 長 この意見については、前迫委員の意見と関連したものなので、これらを考慮して修正をお願いします。

3 改訂 都市計画マスタープラン（全体構想）

上記項目について、次の資料を基に、概要を事務局から説明。なお、時間の関係から、パワーポイント P40「新なら市街地構想図」までを説明。

(1) 改訂 都市計画マスタープラン（全体構想）【資料 3】

(2) 説明用パワーポイント【資料 4】

〔質疑・意見の要旨〕

会 長 事務局より、議事 4 の説明がありました。
本日の資料は、事前説明の時と若干違いますが、両方の資料を使い分けながら、意見を頂いてもよろしいでしょうか。
あと、全体構想が半分残っていますが、本日、議論をするには時間的に

厳しいと思われます。

次回の議題は地域別構想とありますが、その前半部分で、本日残した全体構想の後半部分を議論させて頂けたらどうかと考えます。

場合によっては、委員会の開催回数を5回から6回に増やすことも含めて検討して頂きたい。

岡田委員 ppt 34 ページの図面など、ぱっとみてわかりづらいと思います。名阪国道や国道 24 号など、図面が煩雑にならない程度に名称を図示して頂けないかと思ひます。

地図には方位と縮尺を図示すると読み取りやすくなります。縮尺が任意ならば、1/25000 など縮尺ではなく、スケールバーで良いと思ひます。

ppt 10・11 ページの図面について、「市街化区域の境界付近で・・・」と説明がありました。市街化区域を茶色の線で表現していますが、市街化区域が入り組んでいて、内と外が非常にわかりづらくなっています。もう少し、内と外がわかりやすい表現にして欲しいと思ひます。

会長 市街化区域の表現については、冊子にした場合も考慮して、もう少しわかりやすくした方が良いかもしれませぬ。

図面の位置関係については、駅や大きな幹線道路程度なら図示できると思ひのですが。

岡田委員 図示できる余地があるので、もう少し位置が特定できる図面となれば良いなと感じます。

会長 工夫をお願いします。

あと、方位とスケールは図示して下さい。

魚谷委員 ppt 9 ページで人口減少と厳しい行財政とありました。

昨年の奈良市一般収支決算では、7 億円弱の黒字だったと認識しています。企業会計と公共の会計が違ひのかもしれませぬが、財政事情について、本当に厳しいのか、もう少しわかりやすく説明して頂けないでしょうか。

財政が厳しく、人口が減少、特に生産年齢人口が減少している中で、絵空事のような財政とかけ離れた計画として良いのか、非常に気になります。通常の企業であれば、収入が厳しいなど収支に基づいた計画を考えるものだと思ひます。

会長 市民サービスという観点からすると、企業のように利益確保を前提に投資の是非を決定するのではなく、赤字覚悟でもすべきことはしなければなりません。これは、その時の市長が示す市政方針が大きく影響すると思ひます。

また、道路など都市基盤に関しては、全て市の負担というわけでもなく、県や国の財政も絡んでくるので、企業会計とは少し違ひ考え方だと思ひ

れます。

事務局 先程の黒字については、起債なども含めて黒字ということだと思われ
ます。説明資料にある厳しい行財政というのは、中核市の中で比べると下
の方に位置するという意図で示しました。

改訂計画では、奈良市のまちづくりのビジョンを示します。20年後の経
済情勢は不透明な部分もありますが、事業を興す際にその根拠となるビ
ジョンが改訂計画に示されていることが重要となります。

よって、単に絵空事とするのではなく、まちづくりのビジョンとして必
要なものは、財政的な根拠が少し薄くても示すべきと考えます。

会 長 しかし、財政基盤を無視するわけにはいかないかなと思います。計画が
絵空事で終わっては困りますから。

事務局 4次総計の実施計画は、財政的な根拠を伴った計画となっており、こ
ちらで対応できると考えます。

会 長 改訂計画でビジョンを示したが、財政状況を反映した施策は、その時々
の総合計画の実施計画で反映するということですね。

事務局 都市計画マスタープランは、総合計画の下位計画という位置付けなので、
施策は総合計画に準じて進めていくということです。

魚谷委員 総合計画には財政的な根拠があるということですね。

事務局 そうです。

工藤委員 4次総計で目標人口が35万人（推計人口より1万人増）と設定されてい
ましたが、これは、財政を考慮して設定された数値ですか。

事務局 35万人の目標値というのは、あらゆる施策を前提としたものなので、当
然、財政的なものも考慮されています。

井原委員 都市マスを修正する意味として、今の奈良市が抱えている課題に対応し
ながら、他の都市にない奈良市の良さをだし、加えて暮らしを良くする。
そのためのビジョンを示すのが都市マスだと思います。

そうした意味で、本日の議論の対象は、ビジョンの骨格を示す重要な箇
所と思うのですが、特に個性と課題に関して、ppt6ページの改訂の
視点でも見えづらかったと思います。

奈良市ならではの個性や課題という視点と、一般的な都市政策の課題が
融合していて、奈良市ならではの視点が埋もれてしまっているように感
じます。

先程の行財政の指摘もそういう風な感が否めない。

本編 11～15 ページに「都市政策の課題」「個性」「暮らし」「交流」「ま
ちづくりの取り組み」という括りで現況と課題が整理されているが、【奈
良市の特性】と【奈良市の抱える喫緊の課題】が混在していてわかりづ
らく感じたので、整理をして頂きたいと思います。

井原委員 歴史・文化・自然・人は、京都や鎌倉、自然度が高い都市でも特徴として使われている。しかし、そこに奈良市の特徴もあると考えており、歴史と自然と暮らしが三位一体であること。これが他にはない奈良市の個性であると考えます。暮らしに身近なところに自然と歴史が存在し、無意識になるくらい近い存在であることが奈良市の個性であると考えます。

自然・歴史文化・暮らしが融合し、それを活かして人を呼び込む。そのために都市計画がどうあるべきかを都市マスで示すのであれば、前回委員会の意見にあった「歴史自然共生都市」のような、共生や融合、三位一体などそういったキーワードが必要ではないかと考えます。

井原委員 個性豊かなならの3本柱の1つの「水辺の復権と機能強化」があげられています。

水にあまり恵まれなかった奈良は、非常に水に対する思い入れが強く、そうしたものを活かした信仰であるとか、地名など、有形無形を問わず痕跡が残っている都市です。

しかし、これらが都市構造の制度の中で埋もれてしまっており、多くのものが使いづらくなっていたり、景観が変わってしまったりしている。これら失われたものを課題とするのか、今残っているものを活かすのか、個性豊かなならの柱に「水辺の復権と機能強化」を柱としてあげるのであれば、水辺に対するビジョンを示すことが必要だと考えます。

このビジョンが浅いために、具体施策が非常に弱いと感じられます。

市として水辺をどのように捉えているのか、何故、「水辺の復権と機能強化」を柱の二番目にあげられているか。

会 長 水辺の復権と機能強化を掲げているが、奈良固有の水辺の問題が何なのか、そういった整理がないということだと思います。

岡田委員 水辺に関する施策は、本編 53・55 ページに少しあるだけで、柱としている割には少なく感じます。

遣水という言葉だけでなく、左京三条二坊の宮跡、遣水を活かした曲水の宴を再現している東院の庭園など、もう少し具体的な記述があった方がよいと思います。

事務局 水辺は緑の基本計画で担当する分野であり、都市マスでは、この計画を反映した内容としています。

緑の基本計画を全て転記することはないですが、もう少し、奈良市固有の水辺に関する考え方を緑の基本計画から整理できないか、検討したいと思います。

尾崎委員 観光ボランティアの立場として、p p t 40 ページの新なら市街地構想は

素晴らしいと思っている。

しかし、緑に関して言うと、周辺部の緑は多いが、中心部には全然緑がない。また、水に関して言うと、ほとんどが暗渠となって、水流という所はない。池泉回遊のような水ではない。

緑と水に関しては、全ての所に緑や水があるようにして欲しい。極端ではあるが、暗渠を開渠にしたり、中心部に泉をつくるくらいの考えでして欲しい。

尾崎委員 ppt 40 ページで、回廊軸が示されています。奈良（の観光）は歩くというのが大前提です。観光がなくては生きていけない奈良では、歩道と自転車道を充実することが重要と考えています。
交通を考える際には、自動車だけでなく、歩行と自転車についても是非考えて頂きたい。

林委員 本編 50 ページに歴史文化遺産の保全活用、歴史文化の産業化とあります。
奈良市の歴史文化というと、1300 年前に戻ってしまうが、それから後も続く文化遺産や近代的な文化遺産がないがしろにされているように思われる。

1300 年前からあるというのは、奈良市の特性だから、それを活かすためにも近代遺産を磨かないといけない。

100 年先の子孫に残すためにも、そのあたりの遺産がないがしろにされていたら途絶えてしまう。

奈良町などは 1300 年前からある町として残っている遺産なので、こういうところも加えて頂けたら有り難いと思います。

会 長 地域の問題と言うことでしょうか。

林委員 奈良市全体です。奈良市全体として文化遺産の活用とするならば、これらの活用をお願いしたいと思います。

林委員 本編 56 ページに自主防災組織の結成率向上とありますが、現在の結成率は 100%に近いものだったと認識しています。

ここは、結成率の向上ではなく、自主防災組織の育成、自主防災組織の活用を考えた方が良くと思います。

また、防災では、観光客の視点が重要と思います。観光に訪れた際に被災した場合、どうすれば良いかなどを謳う必要があると思います。

会 長 自主防災組織については、結成率向上を削除すれば良いですね。

観光客の防災は、避難所として公民館・学校だけでなく、神社仏閣にも協力してもらわないといけない。そういうことをどこかに謳った方が良くと思います。

事務局 観光客の防災について、本市が有する多くの歴史文化遺産が観光客や高齢者にとって一番わかりやすい避難場所であることを考慮し、文化価値を損なわない程度で災害時の一時的な避難所として活用を検討するという施策を本編 50・56 ページ等に記載しています。

副会長 p p t 10・11 ページにある図面は、面積当たりで示しておくべきと思います。

副会長 防災について、説明では「暮らし豊かななら」で項目を設定しているとのことでした。
現行計画では、「園林都市（改訂→個性）」「生活うるおい都市（改訂→暮らし）」のどちらにも項目が設定されています。
奈良市の個性を活かした防災という観点から、改訂計画においても、「個性豊かななら」に防災の項目を設定しておいてもよいのではないのでしょうか。

副会長 暮らし豊かなならについて、p p t 13 ページでは、集約型都市構造の実現で暮らしの利便性を高めるとしてあるのに対し、p p t 21 ページでは集約型都市構造の記載がないのが気になります。

副会長 p p t 24 ページで都計道の見直しや重点路線の整備とありますが、根拠となるデータがありません。
根拠データがあれば、改訂計画で具体的な交通改善の案を提示できるのではないのでしょうか。

副会長 アンケート結果では、福祉面での改善に期待感が大きくなっています。
交流に関連して、思いやりやもてなしなどを記載することによって、外から来られる方々も安全・安心や福祉などおもてなしの心で支えていくというシナリオが書けたら良いと思います。

副会長 p p t 34 ページの都市構造図は非常に需要です。
現行計画では抽象図であったのが、改訂計画では地形図に落とし込んだ具体図となっています。
このように、図面の体裁を変えたことにより、何がどう変わったかという比較がしづらくなっています。
変更した部分を示しつつ、内容を絞って、明確な根拠を示した方が良いのではないのでしょうか。

副会長 p p t 40 ページの市街地構想図について、ここで歴史文化軸を示してい

るが、五条大路などは現道もなく、ほとんど痕跡が見あたらない状況だ
と思います。

概念も大事だが、方針（具体的なビジョン）もセットで示さないと市民
に納得して頂けないのではないのでしょうか。

前迫委員 ppt 12 ページに「都市間競争に打ち勝つ」と示されているが、最近
は、「都市間の連携、人と共生する、便宜を図る」ということが大事だと言
われています。

インフラ整備よりコミュニティの形成や人と人のつながりをどう残して
いくかということが重要な中で、「都市間競争に打ち勝つ」とされると、
奈良の雰囲気と少し違うように感じます。

連携を図って周辺都市から人に来てもらい、楽しんでもらうのが奈良で
はないかと考えますので、そういう方向性を考慮すれば、より奈良らし
くなるのではないかと思います。

前迫委員 ppt 17 ページの「平城宮跡から望む春日山丘陵」について、平城宮跡
から望むのは「春日山丘陵」ではなく、「春日山原始林」であるので、修
正をお願いします。

前迫委員 ppt 18 ページの「水辺の復権」について、水と森はそれぞれが単
独ではなく、つながりがあって初めて生きてくるものなので、「水辺の復
権」よりも「森と水辺の賑わいや再生」などの方が良いと思います。

前迫委員 ppt 26 ページの 1) について、ここでは、歴史文化・景観の項目とな
っていますが、景観の基盤となるのは生態系や自然そのものです。

よって、「③市街地背景となる緑」などは、「都市域の生態系となる緑の
保全と育成」の方が良いのではないのでしょうか。

この 1) では歴史文化と景観が整理されていますが、環境という視点が
必要ではないかと考えます。

前迫委員 ppt 27 ページの都市構造について、説明ではエネルギーと関連する項
目とあったが、「生活の広がりに応じた都市構造の形成」では、エネルギ
ーとの関連性が全く見えない。

今回、防災やエネルギーなど新しいコンセプト作りが重要なので、これ
らを考慮した表現として欲しい。

前迫委員 ppt 40 ページの市街地構想図について、近鉄奈良駅まで歩いてくる
鹿、原始林の中まで車が入れるなど、自然が都市部まで包括している、
都市と自然が融合していることが奈良市の良さと考えます。

しかし、自然核と都市核に重なりがない。
バッファゾーンやコアゾーンの設定など、ゾーニングに重なりをもたせて構想図を示した方が良いのではないのでしょうか。

前迫委員 ppt 40 ページの渡来軸は現行計画にないものであり、改訂計画の売りになるのではないかと考えますが、本編の内容を読んでもいまいち意味がわからない。

奈良は歩いて楽しいまちであり、コミュニティが残っているまちです。新興住宅地が増えている中で、そこでどうやってコミュニティを再生していくか、これを奈良らしさとして盛り込んで頂きたいと考えます。

会長 本日、オブザーバーとして 9 地域の代表が参加されています。地域別の内容は、次回以降ではありますが、せっかく参加頂いておりますので、何か一言二言お願いします。

浦辻委員 様々な問題を抱えている東部地域なので、次回から、いろいろ発言させて頂きたいと思います。
地域Ⅰ

新堂委員 「新平城京」という表現は、現行計画の時にいきなり出てきた表現ではなかったかと思えます。
地域Ⅱ

この表現はもう良いのではないかと思えます。

天皇家もいないのに、なぜ京にこだわらなければいけないのかと。

それよりも、今残っている歴史文化、平城京だけではなく、平安時代、鎌倉時代、江戸時代も含めて、様々な歴史を積み重ねた奈良の値打ちができています。そこで、平城京にこだわるのはマイナスではないかと考えます。

新堂委員 計画をみて違和感を感じるのは「軸」についてです。
地域Ⅱ

「軸」とは一体何なのか。

特にわからないのが朱雀大路シンボル軸です。ここでは一体何ができるのか。どういう意味があるのか。

奈良は歩くまちなので、まず、人の流れが始まりだろうと考えます。それがベースにあって、より利便性を高めるために道路、交通手段があるのではないかと考えます。

計画で抜けているところは軸と軸の結節点。これがないと意味がない。

公共交通機関はつながりがないと意味がありません。

辻澤委員 地域Ⅲは 65 年ほど前に奈良市に合併しました。自然や歴史文化も豊富
地域Ⅲ

しかし、交通の利便性が 65 年前からほとんど変わっていません。南北には天理線と国道 24 号がありますが、東西には幹線が 1 つもありません。この東西の幹線を何とかしてもらえれば、利便性も良くなるのではないかと考えます。

藤田委員 平城宮跡が含まれる地域であり、新平城京という表現に賛成します。
地域Ⅳ 藤原京から平城京に遷り、平城京から京が遷ってもまた平城京に戻ってきた。その様な歴史などを踏まえても、平城京を中心とした計画を策定することには非常に賛成です。

藤田委員 先程から意見として出ている水辺について、細かなことは、別途相談させて頂きたいと思いますが、重要な内容ではあると考えます。
地域Ⅳ

上野委員 リニア新幹線の間接駅を積極的に誘致しているが、改訂計画は 20 年先を見据えたものなので、その中間駅へのアクセスをどうするかを検討しなければならないのではないかと思います。
地域Ⅵ

上野委員 南北のアクセスについて、大和中央道が未整備です。しかし、本日の説明でこの大和中央道が廃止となっています。大和中央道の廃止は本日の説明で初めて聞きました。いきなり廃止ではなく、きちっとした説明が必要ではないかと思います。
地域Ⅵ

中口委員 新興住宅地で構成された地域であり、既成市街地とは逆に、生活がしにくいほど緑が多くて困っています。
地域Ⅶ 本日の話を聞いていて、我々の生活とは少しかけ離れた内容かなと思って聞いておりました。

中口委員 水は大事なことと考えます。
地域Ⅶ 上水、下水、中水とあって、一番大切なのは我々が生きていくための水であり、見ていて綺麗な水というよりも、もっと生活に密着した水を考えなければならないのかなと思いました。

中口委員 われわれ、連合会や自治会の会長の立場では、1 つ言うと 100 や 200 の意見が返ってきます。
地域Ⅶ 机上の理論だけでは我々の立場は務まりません。そういったところをくみ取って、われわれの意見を聞いてもらいたいと思います。

上田委員	月ヶ瀬梅林、大和茶の名産地です。
地域Ⅷ	3つのテーマ、個性では月ヶ瀬梅林の育成保全、暮らしでは交通体系の見直し、交流では歴史文化の産業化、あるいは観光交通の整理、こういう観点で計画を実現して頂ければ有り難いと感じました。
植委員	都祁地域にも歴史文化遺産がたくさんありますので、これも反映して頂けたらと思います。
地域Ⅸ	
植委員	名阪国道に針テラスが整備されており、多くの車が停まって中核拠点となっています。それを中心に都祁地域の発展を計画に反映して頂きたいと思います。
地域Ⅸ	
植委員	都祁地域では、地産地消も反映して頂きたいと思います。
地域Ⅸ	
会 長	各地域のオブザーバーから意見を頂きました。
	次回以降、地域別構想を進めていきますので、続けて出席頂けるよう、
	よろしくお願い致します。
	以上をもちまして、第2回都市計画マスタープラン策定委員会を終了さ
	せて頂きます。
資 料	<p>【資料1】第1回奈良市都市計画マスタープラン策定委員会の意見に対する回答及び修正案</p> <p>【資料2】都市計画マスタープランの改訂</p> <p>【資料3】改訂 都市計画マスタープラン（全体構想）</p> <p>【資料4】説明用パワーポイント</p>